

伝統的農村風景×IoTの教育

Child education provided with resources in rural village and IoT tools

東京大学農学部3年 野田坂 秀陽

(NODASAKA Shuyo)

農業・農村の役割は、農作物の生産だけでなく、美しい景観、文化の継承、子供の教育などもある。しかし、近代化の進展に伴い生産以外の面での役割が薄れつつある。一方、伝統的景観や子供の教育の場が失われることに対する危機感は強いと感じる。その中で、岐阜県の古民家と棚田を自由に使える機会を得たので、特に教育に注目し、棚田を活用した形で子供が自然の中で遊び学べる場所を生み出せないか、実地調査により検討し、計画を進めている。また、情報通信技術は、通常アクセスの悪い場所にある農村を、都市など遠隔地から体験することを可能にすると考え、インターネットの活用方法についても模索した。

活動では、伝統的な農村景観を残す岐阜県の八百津町の山間部集落にある古民家と付近の棚田の休耕地を拠点として、①地域の方々へのヒアリング、②古民家の整備、③休耕地の整備を行った。

①ヒアリングでは、八百津町での活動あたって地域の魅力や地域おこしへの感度を知るために、八百津町で地域おこしに取くむ方々や、集落の方々を訪問し、聞き取り調査を行った。その結果、開店予定の古民家カフェが県内外から強い注目を集めていることや、町内のバンジージャンプを目当てに若者が多く訪れることなどが分かった。また、住民の方々が総じて地域の振興を強く求めていると話していたことが印象的だった。

②古民家の整備では、この建物を教育活動の拠点として使用するために、使える設備の確認や掃除などを行った。茅葺屋根を残す古い構造の家屋ならではの屋根裏にたまった茅のカスの除去作業など刺激的だった。

③休耕地の整備では、休耕地となっている棚田を子供の遊び場として使えるスペースとするため、休耕期間中に茂った草木を伐採した。

この構想で目指すのは、「自然と人の交流拠点」の創出である。都市公園のように多すぎるルールにしば

られることなく、家の庭ではできない広さと景色の中で、のびのびと遊べる場にしたい。

棚田をどのように使って遊び場にするかは、私が決めることなく、利用者が思いつくままに使えるようにしたい。ただ、そのためにはこの場所に多くの人々が集まり、何度も訪れ、愛着を持って関わってくれることが重要だ。そのため、最初はイベントの開催等によって、積極的に訪問者を集めることが必要だ。

そこで、棚田の景観への愛着が深まり、かつ参加する人から通りがかる人まで含め関わる人全てが楽しめるイベントとして、「棚田をテラス」というイルミネーションを企画している。子供を中心とする参加者が絵を描き、その絵を棚田上のライトアップで再現する。子供にとって作品が堂々と展示される体験自体が貴重な上、自然の中で電球の設置等の作業をするということも環境教育に有意義だと考える。また、ライトアップされた棚田はwifiカメラにより動画配信サイト等で公開し、地域の人に限らず、多くの人へ景観の映像を届け、子供の自然教育の機会や棚田の維持への理解を広げたい。

その後の構想では、棚田や地域の魅力を考える会を開催したり、棚田を子どもの農作業体験用の農地にしたりする予定である。これらは、教育や棚田に関心のある方々とコミュニケーションをとることで、大学生の一人歩きなアイデアにならずに、古民家棚田の可能性をさらに幅広く模索するための取り組みである。

なお、これらの取り組みは農村景観の重要性への認知を広めることが目的の一つで、この活動を SNS 等の情報通信技術を使うことでより多くの、子供の親を含めた若年層に届くと期待している。



岐阜の古民家、棚田を中心とした子どもへの自然教育活動。

コンセプトは「創造的公園」。

都市の公園は禁止事項だらけ。山に勝手に入るのは危ない。

外で自然の中で思い切り遊べる場所は珍しい。

ここでは、遊ぶためなら自由に使ってい。

クリエイティビティに富んだ使い方を見つけて欲しい。

イルミネーション企画ポスター（コロナにより延期）



1. 絵を描く



2. ライトの田植え



3. 作品を発表する



みんなで作るイルミ「棚田をテラス」



2/26 15:00 ~



八百津町赤薙



小学生～高校生
外遊び、絵が好きな子



お問合せ
tanada.o.terrace@gmail.com



参加申し込み
上手できない時はメールにて。



主催者：「未来図チーム」
東京大学農学部学生チーム。自然大好き！
新しいもの好き！そんな好奇心溢れる学生達が
「農村の未来を考えよ」というお題に取り組む。

棚田を中心とする農村と子どもの関わり

農村

・自然教育

自然と触れ合う経験を提供する。

・遊び場

周りを気にせず主体的に遊ぶ。

・繋がりの創出

子ども同士、親同士、地域住民との交流が生れ、
ネットワークが構築される。

・景観保護

利用者は、この場所を守ろうと思い始める。

棚田をテラス

子ども

イルミネーション企画を実施予定

ポイント

①情報技術の利用

SNS等で発信することで、現地まで遠い人達も参加したり、
見守ったりできる。

②来るものを拒まない場所。

「子ども」とは、子ども時代の自然体験が足りないと思う心

古民家と棚田を使う



古民家



棚田

左から (1) 古民家の囲炉裏、(2) 左側に見える古民家と集落の様子、(3) 草刈前の棚田、(4) 草刈後の棚田

